MO ディスクドライブ

MOS-U1300

ハードウェアマニュアル

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク .... ⚠注意 **に続く説明文は、製品の取り扱いにあたって特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。**

次の動作マーク .... 次へ **に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。**

文中の用語表記

- **本製品を「MOS」と表記しています。**

安全にお使いいただくために必ずお守りください

お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい事項を記載しました。
正しく使用するために、必ずお読みになり内容をよく理解された上で、お使いください。なお、本書には弊社製品だけでなく、弊社製品を組み込んだパソコンシステム運用全般に関する注意事項も記載されています。
パソコンの故障／トラブルや、いかなるデータの消失・破損または、取り扱いを誤ったために生じた本製品の故障／トラブルは、弊社の保証対象には含まれません。あらかじめご了承ください。

■使用している表示と絵記号の意味

警告表示の意味

⚠ 警告	絶対に行ってはいけないことを記載しています。この表示の注意事項を守らないと、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示の注意事項を守らないと、使用者がけがをしたり、物的損害の発生が考えられる内容を示しています。

絵記号の意味

△	△は、警告・注意を促す記号です。△の近くに具体的な警告内容（例：感電注意)が描かれています。
⃠	○に斜線は、してはいけない事項（禁止事項）を示す記号です。 ○の中や近くに、具体的な禁止事項が描かれています。（例：分解禁止）
●	●は、しなければならない行為を示す記号です。 ●の近くに、具体的な指示内容（例：プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告

本製品を取り付け、使用する際は、必ずパソコンメーカーおよび周辺機器メーカーが提示する警告・注意指示に従ってください。

本製品の分解や改造や修理を自分でしないでください。
火災や感電の恐れがあります。

本製品の取り付け／取り外しをするときは、パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、電源プラグをACコンセントから抜いてください。
電源プラグがACコンセントに接続されたまま、本製品およびSCSIケーブルの取り付け／取り外しを行うと、感電および故障の原因となります。

電気製品の内部やケーブル、コネクタ類に小さなお子様の手が届かないように機器を配置してください。
さわってけがをする恐れがあります。

禁 止

濡れた手で本製品に触れないでください。

電源プラグがACコンセントに接続されているときは、感電の原因となります。
また、ACコンセントに接続されていなくても本製品の故障の原因となります。

禁 止

イジェクトピンは、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。

本製品に付属するイジェクトピンは、小さなお子様の手の届かないところに置き、使用後は放置せずに直ちに片付けるようにしてください。目をついたり、飲み込んだりすると大変危険です。

電源プラグを抜く

煙が出たり変な臭いや音がしたら、すぐにパソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。
弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。

電源プラグを抜く

本製品に液体をかけたり、異物を内部に入れたりしないでください。液体や異物が内部に入ってしまったら、パソコンの電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。
弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。

水場での使用禁止

風呂場など、水分や湿気が多い場所では、本製品を使用しないでください。

火災になったり、感電・故障する恐れがあります。

強 制

小さなお子様が電気製品を使用する場合には、本製品の取り扱い方法を理解した大人の監視、指導のもとで行うようにしてください。

禁 止

レーザー光線を直視しないでください。

ディスク挿入口を開けて中をのぞいたり、本製品を分解しないでください。
本製品は内部で半導体レーザーを使用しています。レーザー光が目に入ると視覚に障害を及ぼす恐れがあります。

⚠ 注意

禁 止

本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。
弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。

禁 止

本製品の上に物を置かないでください。

傷がついたり、故障の原因となります。

禁 止

シンナー・ベンジン等の有機溶剤で、本製品を拭かないでください。

本製品のよごれは、乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどい場合は、きれいな布に中性洗剤を含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。

強 制

静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除いてください。

人体などからの静電気は、本製品を破損、またはデータを消失・破損させる恐れがあります。

強制

パソコンおよび周辺機器の取り扱いは、各マニュアルをよく読んで、各メーカーの定める手順に従ってください。

パソコンおよび周辺機器の電源スイッチがONの状態で、SCSIケーブルの抜き差しをしないでください。本製品および周辺機器の故障の原因となります。

強制

各接続コネクタのチリやほこり等は、取りのぞいてください。
各接続コネクタには手を触れないでください。

故障の原因となります。

強制

本製品の取り付け／取り外しや、ソフトウェアをインストールするときなど、お使いのパソコン環境を少しでも変更するときは、変更前に必ずパソコン内（ハードディスク等）のデータをすべてバックアップ（MOディスク、フロッピーディスク等）を作成してください。

誤った使い方をしたり、故障などが発生してデータが消失、破損したときなど、バックアップがあれば被害を最小限に抑えることができます。データが消失、破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

禁止

ディスク挿入口に、MOディスク以外のものを挿入しないでください。

MOディスク以外のもの（フロッピーディスクなど）を挿入すると、故障や火災の原因となります。

禁止

MOディスクを入れたまま移動しないでください。

動作中やMOディスクを入れた状態で本製品を移動しないでください。

MOディスク、本製品に損傷を与える恐れがあります。移動する場合は、必ずMOディスクを取り出し、電源スイッチをOFFにしてから行ってください。

禁止

MOディスクを途中まで入れた状態で放置しないでください。

本製品内部にほこりが入り、故障の原因となります。

禁止

ひびわれや変形、補修したMOディスクは使用しないでください。

本製品内部で砕けて、けがや故障の恐れがあります。

強制

MOディスク内のデータおよびパソコン内のデータ（ハードディスク等）は、必ず他のメディア（フロッピーディスク、MOディスク等）にバックアップしてください。

とくに、修復・再現できない重要なデータは、オリジナルの更新前・更新後と、常に二重のバックアップを作成されることをおすすめします。以下のような場合に、データは消失・破損する恐れがあります。

- 誤った使い方をしたとき
- 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
- 故障、修理などのとき
- パソコンの電源スイッチをOFFにした後、すぐに電源スイッチをONにしたとき
- 天災による被害を受けたとき

上記の場合、またその他いかなる場合でも、データが消失・破損したことによる損害は、弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

次の場所には設置しないでください。感電、火災の原因となったり、製品やパソコンに悪影響を及ぼすことがあります。

・強い磁界が発生するところ
・静電気が発生するところ
・温度、湿度がパソコンのマニュアルが定めた使用環境を超える、または結露するところ
　→故障の原因となります。

・振動が発生するところ
　→けが、故障、破損の原因となります。

・平らでないところ
　→転倒したり、落下して、けがや故障の原因となります。

・直射日光が当たるところ
・火気の周辺、または熱気のこもるところ
　→故障や変形の原因となります。

・漏電または漏水の危険があるところ
　→故障や感電の原因となります。

MOディスクは次の点に注意して大切にお使いください。

・MOディスクに、直接触れたりしないでください。
　→MOディスクのシャッターをあけて、ディスクに直接触れないでください。汚れたり、傷がつくとデータが読めなくなります。

・MOディスクを分解しないでください。

・衝撃を与えないでください。

・強い磁界が発生するところに置いたり、近づけたりしないでください。
　→データに悪影響をおよぼす場合があります。

・ほこりなどにさらさないでください。

・直射日光を当てないでください。

・MOディスクのクリーニングを行ってください。

　→MOディスクの表面に、ほこりやたばこの煙が付着し、MOディスクが正常に動作できなくなることがあります。市販のMOディスククリーニングキットを使って、定期的にクリーニングを行ってください。

・MOディスクにラベルを貼るときは、ラベルの貼付位置からはみださないように、しっかりと密着させて貼ってください。
　→ラベルの一部がはみだしたり、浮き上がっている状態でMOドライブに挿入すると、ラベルがドライブ内部で剝がれ、MOディスクが取り出せなくなることがあります。

市販のレンズクリーナーを使用しないでください。

市販のレンズクリーナーを使用すると、レンズ部に損傷を与える恐れがあります。レンズ部は、ほこりが入らない構造になっていますので、レンズのクリーニングは必要ありません。

アクセスランプが点灯している間は、パソコンの電源スイッチをOFFにしたり、システムをリセットしないでください。

データを消失・破損する恐れがあります。

特長

● **大容量1.3GBのMOディスクを使用可能**
1.3GBの大容量MOディスクを使用可能です。従来の128MB、230MB、540MB、640MBのMOディスクも使用可能です。

● **高速回転、高速転送**
MOディスクの回転速度は、1.3GBのMOディスク使用時は3200rpm、640MB以下のMOディスク使用時は4558rpmです。
また、Ultra SCSIインターフェースに対応しているので、最大同期転送速度は20MB/sec（理論値）です。

● **キャッシュ・ミレニアム搭載**
OSからのコマンド系列を解析してキャッシュ（バッファ）制御する「キャッシュ・ミレニアム」を搭載しています。

● **ターミネータ機能内蔵**
ターミネータ設定スイッチで、ターミネータ機能の有効／無効を切り替えられます。

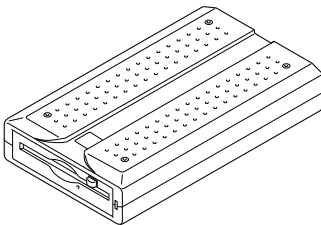
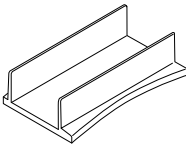
● **ダイレクトオーバーライト方式（DOW）に対応**
230MB、540MB、640MBのMOディスクでダイレクトオーバーライト方式による高速書き込みが可能です。

※ ダイクトオーバーライト方式で書き込むためには、MOディスクもダイレクトオーバーライト方式に対応している必要があります。

パッケージの内容

パッケージには次の物が梱包されています。万一、不足している物がありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。なお、製品の形状はイラストと異なることがあります。

※ 本書では、MOディスクドライブのみの製品のパッケージ内容を説明しています。SCSIインターフェースとのセット製品をお買い求めいただいた場合のパッケージの内容は、別紙の「はじめにお読みください」を参照してください。

●MOS（本体）........................1台

●縦置き用スタンド 1個

●ACアダプタ 1個

●SCSIケーブル(D-subハーフピッチ50ピン) 1本

●イジェクトピン 1本

●フロッピーディスク（3.5インチ）
「MOSシリーズドライバディスク」.........1枚

※ MOユーティリティ（MOフォーマットなど）が収録されています。必ずインストールしてください。

※ Macintoshでは使用しません。

●MOSシリーズ セットアップマニュアル 1冊

※ Macintoshでは使用しません。

●ハードウェアマニュアル（本書）.........1冊

●1.3GB MOディスク（未フォーマット） 1枚

●保証書、ユーザー登録はがき 1枚

※ ユーザー登録はがきは保証書を切り離した後、必要事項をご記入の上、必ず弊社までご返送ください。また、切り離した保証書は大切に保管してください。

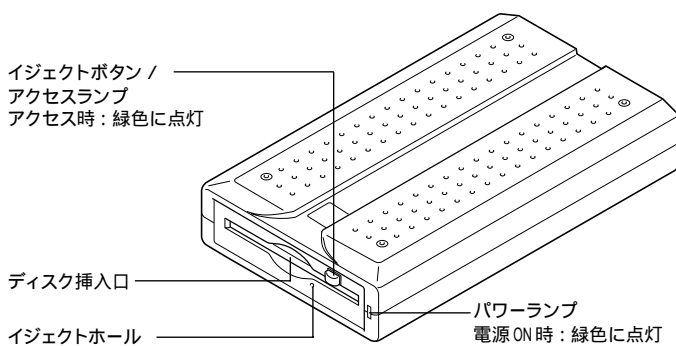
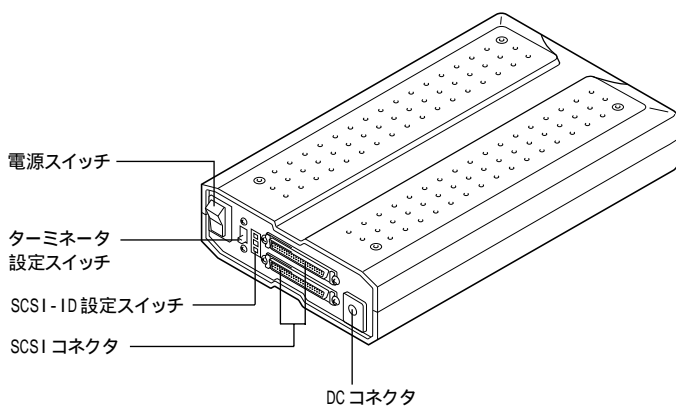
※ 別紙で追加情報が同梱されているときは、必ず参照してください。

各部の名称

● 前面

イジェクトボタン／
アクセスランプ
アクセス時：緑色に点灯
ディスク挿入口
イジェクトホール
パワーランプ
電源ON時：緑色に点灯

● 背面

電源スイッチ
ターミネータ
設定スイッチ
SCSI-ID設定スイッチ
SCSIコネクタ
DCコネクタ

セットアップのながれ

MOSのセットアップ手順は次のとおりです。

メモ SCSIインターフェースとのセット製品をお買い求めの場合のセットアップのながれは、別紙の「はじめにお読みください」を参照してください。

パソコン→周辺機器（MOSを含む）の順に電源スイッチをOFFにする

▼

MOSの設定をする
・SCSI-IDの設定 .... 【P10】
・ターミネータ機能の設定 .... 【P10】

▼

MOSにACアダプタを接続する

▼

MOSをパソコンに接続する（*1）
・MOSだけを接続するとき .... 【P11】
・複数のSCSI機器を接続するとき ... 【P11】

（上記の手順：本書（ハードウェアマニュアル））

▼

周辺機器（MOS含む）→パソコンの順に電源スイッチをONにする

▼

必要に応じてSCSIインターフェース（*2）またはパソコン本体の設定をする
（パソコン、またはSCSIインターフェースのマニュアルを参照）

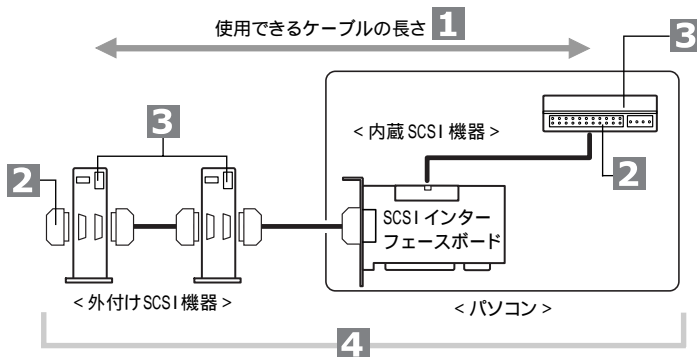
▼

付属のユーティリティをインストールする
※ フロッピーディスクに収録されている「MOユーティリティ」をインストールすると、自動的にドライバもインストールされます。必ずインストールしてください。
（別冊「MOSシリーズセットアップマニュアル」参照）

*1 Macintoshを使用している場合は、取り付けに弊社製接続キット（DCK-ADAPまたはDKC-CB2）を別途ご用意ください。
また、フォーマットはDCK-ADAPに付属のフォーマッタ、または市販のフォーマッタをお使いください。
フォーマッタのインストール手順や使いかたは、フォーマッタに付属のマニュアルを参照してください。

*2 本書ではUltra SCSIインターフェースとSCSI/SCSI-2インターフェースを合わせて「SCSIインターフェース」と表記しています。

接続時の注意

SCSI機器を接続する時の注意事項を、次の図の 1 ～ 4 で説明しています。必ずお読みください。

本製品はUltra SCSI機器です。本ページに記載の接続台数とSCSIケーブルの長さの制限は必ずお守りください。

1 SCSI ケーブルとコネクタ

● MOSを接続するSCSIインターフェースがUltra SCSI対応かSCSI-2対応かによって、接続できるSCSI機器の台数と、接続に使用できるSCSIケーブルの長さの合計が異なります。

SCSIインターフェースの種類	接続台数	ケーブルの長さの合計(*1)
Ultra SCSIインターフェース(*2)	1～3台	3m以下
	4～7台	1.5m以下
SCSI-2インターフェース	7台まで	6m以下

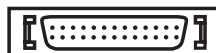
*1 ケーブルの長さの合計には、SCSI機器の内部に配線されている部分（10～20cm程度）も含まれます。

*2 Ultra SCSI対応のSCSI機器を使用するときは、SCSI機器の台数が多くなるほどSCSIケーブルの長さの合計を短くする必要があります。ケーブルの長さが1.5mを超えるときは、Ultra SCSIインターフェースの転送速度をSCSI-2相当（理論値10MB/sec）に変更すれば、ケーブルを6mまで使用できます。転送速度の変更方法は、SCSIインターフェースのマニュアルを参照してください。

● SCSIケーブルは一般的なSCSI-2の標準に適合した物を使用してください。

● SCSIケーブルとSCSI機器のコネクタ形状が合っているか確認してください。
付属のSCSIケーブルのコネクタは、両端ともD-subハーフピッチ50ピンです。パソコンやSCSIインターフェースボードによっては、別売の弊社製接続キットと組み合わせて接続する必要があります。

アンフェノールハーフピッチ 50 ピン

D-sub ハーフピッチ 50 ピン

次のページへ続く

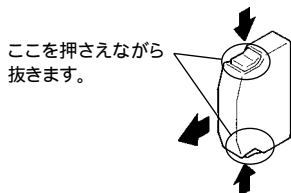
● 接続に使用するSCSIケーブルの特性インピーダンス値を統一してください。特性インピーダンス値は、SCSIケーブルのパッケージやケーブル自体に印刷されています。弊社製SCSIケーブルの場合は、約90Ωに統一されています。

● SCSIケーブルを接続する前に、コネクタのピンが折れたり曲がったりしていないか確認してください。

2 ターミネータ（終端抵抗）

● デイジーチェーン（*）の終端に接続するSCSI機器は内蔵ターミネータを有効にするか【P10】、ターミネータ（別売品）を取り付けてください。
内蔵SCSI機器の場合も、SCSIケーブルの終端（1台目用のコネクタ）に接続するSCSI機器は必ずターミネータ機能を有効にしてください。

* 複数のSCSI機器をケーブルで直列につないだ状態

● SCSIケーブルやターミネータを取り外すときは、クランパ（2箇所）を押さえながら引き抜いてください。
SCSIケーブルやターミネータを取り付けるときは、カチッと音がするまでしっかり差し込んでください。

3 SCSI-ID

● 同じSCSI-IDを複数のSCSI機器に割り当てないでください。ただし、複数のSCSIインターフェースを併用しているときは、異なるSCSIバス間で同じSCSI-IDがあっても構いません。【P10「SCSI-IDの設定」】

4 システム全般

● 取り付け作業をするときは、必ずパソコン本体と周辺機器のマニュアルを参照してください。

● 取り付け作業を始める前に、必ずパソコンの電源スイッチをOFFにしてください。

● 大切なデータを守るため、パソコンと周辺機器の電源スイッチをOFFにする前にアプリケーションをすべて終了し、ハードディスクなどに記録されているデータを他のメディア（フロッピーディスクなど）に保存してください。

● パソコンおよび本製品は精密機器です。巻頭の「安全にお使いいただくために必ずお守りください」を必ず参照してください。

● 取り付け作業を始める前に、次の物を用意してください。
・パソコンおよび周辺機器のマニュアル
・本製品および付属品
・SCSIインターフェースボード（カード）
※ Macintoshなど、パソコン本体にSCSIインターフェースが内蔵されている機種では不要です。

● 複数のSCSI機器を接続するとき
システムの動作が不安定になる場合があります。その場合は、次の方法で回避できることがあります。
・ Ultra SCSI対応機器（MOSを含む）をデイジーチェーンの終端、またはその近くに接続する
・ できるだけ短いSCSIケーブルでSCSI機器を接続する
・ 接続しているSCSI機器の電源スイッチをすべてONにする
以上の作業を行っても回避できないときは、接続するSCSI機器の台数を減らしてください。

メモ Ultra SCSIインターフェースを使用すると、データ転送速度（理論値）がSCSIインターフェースの2倍になりますが、データをやり取りするタイミングが厳密になるため、複数のSCSI機器を接続した場合に動作が不安定になることがあります。

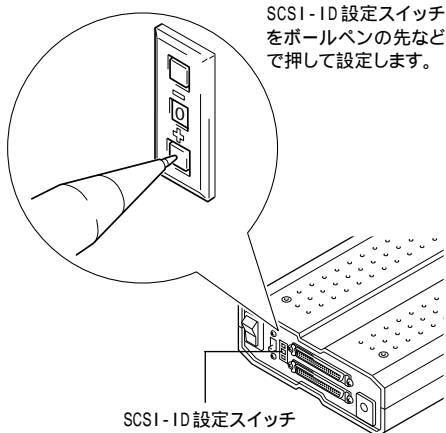
SCSI-IDの設定

パソコンにSCSI機器を識別させるために、各SCSI機器にSCSI-IDと呼ばれる番号を割り当てます。

● SCSI-IDは出荷時に2に設定されています。

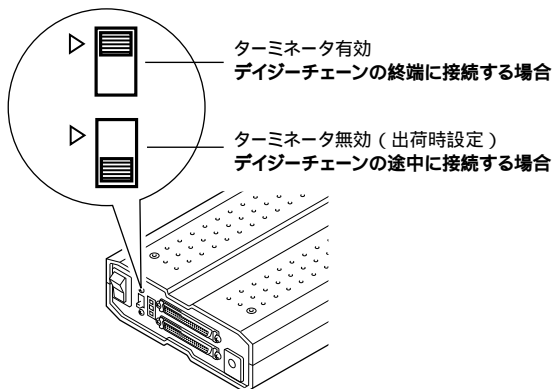
● 複数のSCSI機器と併用するときは、SCSI-IDが他のSCSI機器と重複しないように変更してください。

● SCSI-IDは0～6の範囲で設定してください。7は通常SCSIインターフェースが使用します。0から順に1、2、3...と連続して設定することをおすすめします。

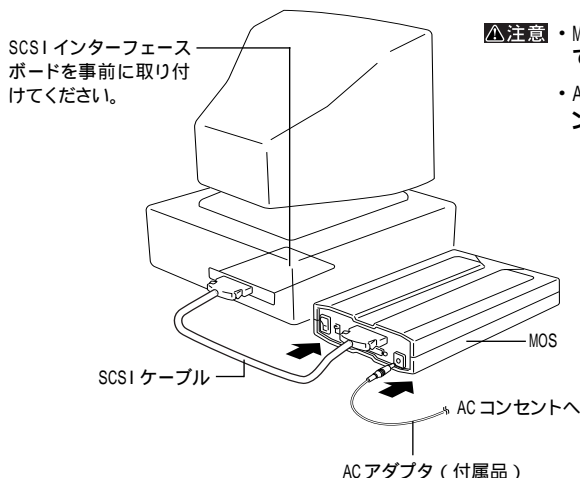
⚠注意 **芯が折れたり、砕けた芯の粉末が発生する鉛筆などの筆記具は使用しないでください。**

ターミネータ機能の設定

MOSだけを接続するときや、MOSをデイジーチェーンの終端に接続するときは、ターミネータ機能を有効にします。

● 出荷時はターミネータ無効に設定されています。

⚠注意 **ターミネータ機能の切り替えは、必ずMOSの電源スイッチをOFFにしてから行ってください。**

接続のしかた

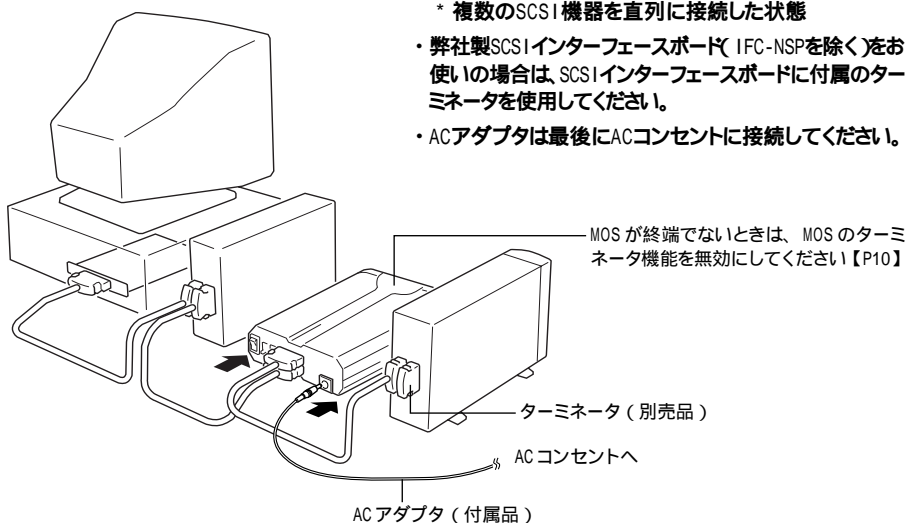
事前にパソコンと周辺機器の電源スイッチをすべてOFFにしてください。

MOSだけを接続する

⚠注意
- **MOSのターミネータ機能を必ず有効にしてください。【P10】**
- **ACアダプタ（付属品）は最後にACコンセントに接続してください。**

複数のSCSI機器を接続する

MOSをデイジーチェーンの途中に接続する例を説明します。

⚠注意
- **デイジーチェーン（*）の終端に接続するSCSI機器は、内蔵ターミネータを有効にするかターミネータ（別売品）を取り付けてください。**
  ＊ 複数のSCSI機器を直列に接続した状態
- **弊社製SCSIインターフェースボード（IFC-NSPを除く）をお使いの場合は、SCSIインターフェースボードに付属のターミネータを使用してください。**
- **ACアダプタは最後にACコンセントに接続してください。**

MOS の使いかた

使用時の注意

● 電源スイッチをＯＮにするときは、必ず周辺機器(MOS含む)→パソコンの順でONにしてください。

● 電源スイッチをOFFにするときは、必ずパソコン→周辺機器(MOS含む)の順でOFFにしてください。

● MOディスクの初期化について
MOディスクは、使用する前に初期化(フォーマット)する必要があります。本製品にはＭＯディスクをフォーマットするためのプログラムが添付されています。
使用できるフォーマットプログラムはMOディスクの利用形態により異なります。詳細は、別冊「MOSシリーズセットアップマニュアル」を参照してください。

※ Ｍａｃｉｎｔｏｓｈの場合は、弊社製接続キット（DCK-ADAP）に付属のフォーマッタまたは市販のフォーマッタをインストールしてください。詳細は、フォーマッタに付属のマニュアルを参照してください。

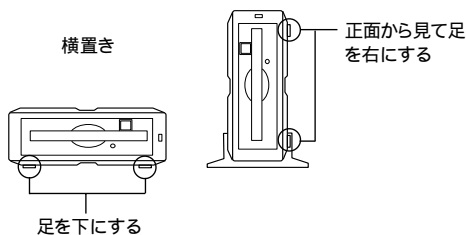
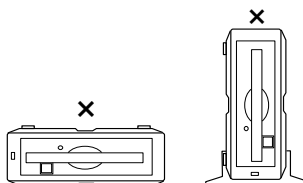
● MOSのアクセスランプが点灯しているときは、パソコンからアクセスしないでください。
MOSの準備ができていないため、アクセスエラーが発生します。

● Windows95でMOディスクにバックアップするときの注意
Windows95付属のバックアップツールを使用してMOディスクにバックアップするときは、バックアップするデータの総容量がMOディスクの容量を超えないようにしてください。MOディスクの容量を超えたデータはバックアップできません（これはバックアップツールの仕様によるものです）。

● MOディスクにラベルを貼るときは、指定の位置からはみ出さないようにしてください。
MOS内でラベルがはがれると、MOディスクが取り出せなくなることがあります。
取り出せなくなったときは無理に取り出そうとせず、そのまま弊社修理センターまで修理をご依頼ください。【P17】

● MOディスクにアクセスしているとき(アクセスランプが点灯しているとき)は、絶対にイジェクトボタンを押さないでください。
MOディスク内のデータが破損するおそれがあります。

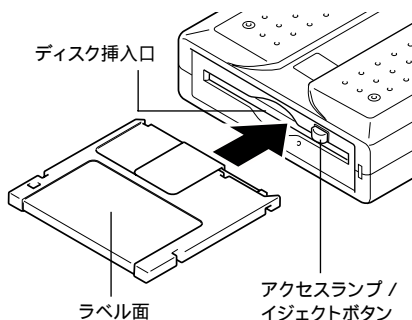
● MOSは次のように設置してください。

※ 本書では、MOSを横置きにして使用する例を説明しています。

⚠注意 動作中やMOディスクを入れた状態でMOSを移動させたり、設置方向を変えないでください。MOSやMOディスクの破損の原因となります。

MO ディスクの挿入

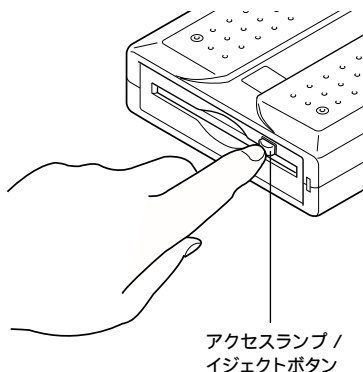
MOディスクのラベル面を上に向け、ディスク挿入口に挿入します。

正しく挿入されると、アクセスランプ（緑色）が3～4秒間点灯します。

⚠注意　パソコンからMOディスクへのアクセスは、アクセスランプが消えてから行ってください。アクセスランプの点灯中は、MOディスクにアクセスできません。

MO ディスクの取り出し

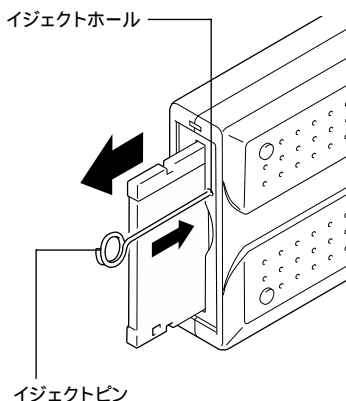
MOSのアクセスランプが消えていることを確認し、イジェクトボタンを押します。

MOディスクが2～3㎝出てきたら、MOディスクを手で取り出します。

※ Macintoshの場合、デスクトップ画面に表示されているMOディスクをゴミ箱にドラッグ&ドロップすると、MOディスクが排出されます。MOS本体のイジェクトボタンは通常使用しません。

MO ディスクが取り出せないとき

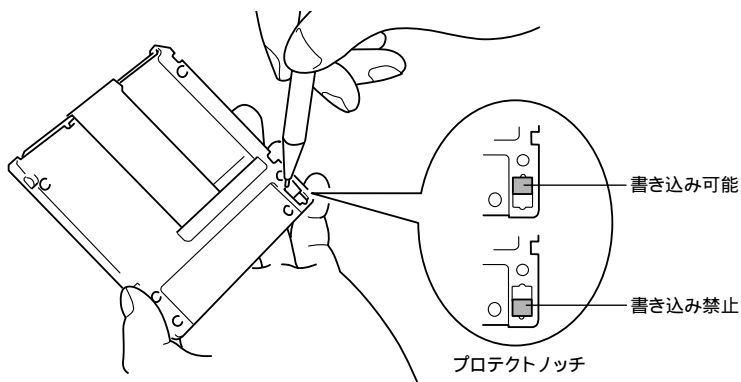
停電などによってMOディスクがMOSに入ったままパソコンの電源が切れてしまうと、イジェクトボタンを押してもMOディスクが排出されなくなってしまいます。

その場合は、付属のイジェクトピンをイジェクトホールに差し込み、強制的にMOディスクを排出してください。

⚠注意　この操作は、必ずパソコン本体の電源スイッチをOFFにしてから行ってください。

MO ディスクを書き込み禁止にするとき

MOディスクに記録したデータを誤って消去してしまわないように、MOディスクへの書き込みを禁止できます。

ボールペンなどを使って、MOディスクの背面にある「プロテクトノッチ」を書き込み禁止の位置に移動させてください。

再度データを書き込むときは、プロテクトノッチを書き込み許可の位置に移動させます。

製品仕様

製品型番		MOS-U1300
インターフェース		Ultra SCSI (FAST-20)
SCSIコネクタ		D-subハーフピッチ50ピン
ディスク		3.5インチ光磁気ディスクカートリッジ（ISO規格準拠）
記憶容量		128/230/540/640MB、1.3GB
ダイレクトオーバーライト方式		対応
ターミネータ機能		内蔵（出荷時設定：無効）
SCSI-ID		0～7(*1)の範囲で設定可能（出荷時設定：2）
回転数		3200rpm(*2)
平均シークタイム		23msec
平均回転待ち時間		9.3msec(*3)
最大転送速度（理論値）	Ultra SCSI	20MB/sec
	SCSI-2	10MB/sec
外部ターミネータへの電源供給		供給する
バッファメモリ容量		1.8MB
外形寸法		121(W)×38(H)×200(D)mm
消費電力（ランダムライト時）		5.3W
電源		AC100V 50/60Hz
動作環境	温度	5～35℃（勾配10℃/時）
	湿度	20～80%（結露なきこと）
対応機種(*4)		DOS/V機 (OADG仕様) NEC製 PC98-NXシリーズ PC-9821/9801シリーズ Apple製 Macintosh(iMacを除く)(漢字Talk7.5以降、MacOS7.6以降) PowerBookシリーズ（漢字Talk7.5以降、MacOS7.6以降） PCMCIAスロット搭載ノートパソコン

*1 7(SCSI-ID)は通常SCSIインターフェースが使用しています。

*2 1.3GBのMOディスクを使用時の数値です。128/230/540/640MBのMOディスク使用時は、4558rpmとなります。

*3 1.3GBのMOディスクを使用時の数値です。128/230/540/640MBのMOディスク使用時は、6.6msecとなります。

*4 弊社製SCSIインターフェース（または接続キット）と併用してください。

※ 採用ドライブは富士通製ですが、デバイス名は「KONICA...」と表示されます。デバイス名は、パソコンを起動したときのSCSI BIOSのメッセージやデバイスマネージャに表示されます。

※ 最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ(http://www.melcoinc.co.jp/)をご参照ください。

■保証書について

本製品付属の保証書には保証期間と保証規定が記載されています。内容をお確かめになり、大切に保管してください。

■ ユーザー登録について

ユーザー登録はがきに必要事項を記入して郵送して頂ければ、弊社製品のユーザーとして登録いたします。

※ 本製品に対するサポートやバージョンアップなどのサービスは、ユーザー登録されている方でなければ受けられません。
※ ユーザー登録後に製品を譲渡した場合、ユーザー登録は変更できません。

■ 修理について

故障と思われる症状が発生したときは、まずマニュアルを参照して設定や接続が正しいか確認してください。改善されない場合は、次の事項をお調べになった資料と保証書の原本を添付し、弊社修理センター宛に製品を直接お送りください。

① 返送先 ［氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号］
② 平日昼間の連絡先
　［氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号］
③ 修理対象のメルコ製品名
④ 弊社製品ハードウェア シリアルナンバー
⑤ 弊社製品ソフトウェア シリアルナンバー
⑥ 具体的な症状 / エラーメッセージ
⑦ 発生状況 ［始めから/ある日突然/環境を変えたら］
⑧ 発生頻度 ［必ず/頻繁/時々/時間が経つと、他］
⑨ コンピュータ ［本体メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑩ ハードディスク ［メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑪ ディスプレイ ［メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑫ その他周辺機器 ［メーカ名/型番/シリアルナンバー］
⑬ OS(オペレーティング・システム)
　［ソフト名/メーカ名/バージョン］
⑭ 製品以外の添付品 ［付属ソフトなど］

製品送付先	〒456-0023 名古屋市熱田区六野2-1-3 中京倉庫内33号6階 株式会社メルコ 修理センター宛
電話番号	052-889-2104

※ ご依頼いただいた修理品以外に関するお問い合わせは承っておりません。
※ 宅配便など、送付の控えが残る方法でお送りください。郵送は固くお断りいたします。
※ 送料は送り主様のご負担とさせていただきます。なお、輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
※ 修理にお送りいただく際に、弊社への事前連絡は不要です。
※ ハードディスクをお送りいただいた場合、そのハードディスクはフォーマットいたします。必要なデータは事前にバックアップを作成しておいてください。
※ 修理期間は、製品の到着後7日程度（弊社営業日数）を予定しております。

MOS-U1300 ハードウェアマニュアル

2000年4月12日 初版発行
発行　　株式会社メルコ

弊社製品の情報は次の方法で入手できます

インターネット

http://www.melcoinc.co.jp/
（ミラーサーバ　http://www.melcoinc.com/）

MELCO Station ＜GO SMELCO＞

製品サポート

インフォメーションセンター

〒457-8520　名古屋市南区柴田本通4-15　株式会社メルコ ハイテクセンター内

本製品のサポートは下記で承っております。

ストレージ製品専用ダイヤル

＜東　京＞	03-5350-7990	月〜金	9:30〜12:00/13:00〜19:00	※祝日を除く
		土/祝	9:30〜12:00/13:00〜17:00	※日曜日を除く
＜名古屋＞	052-619-1188	月〜金	9:30〜12:00/13:00〜17:00	※祝日を除く

※事前にメモとペンを用意し、次の事項を確認しておいてください。
・コンピュータ名と使用OS　・本製品の製品名とシリアルナンバー　・現象（具体的なエラーメッセージなど）